

「今後の県立高校に関する意見交換会（第2回）」記録要旨【釜石・遠野ブロック】

平成27年10月23日（金）

釜石高校 石楠花ホール

【遠野市 参加者】

- ・ 校舎制の導入を進めた場合に、1学年の学級数（1学級定員）は高校標準法に基づいたものになるのか。また、教員の配置については、どの教科も万遍なく配置されるのか。
- ・ 校舎制のデメリットをどう考えているか。
- ・ 遠野・釜石ブロックへの校舎制導入の考えはあるのか。

【県教委】

- ・ 学級数や教員の配置については、高校標準法に基づいて行うものである。
- ・ 校舎制について、生徒数が減少し再編統合を検討する中で、施設設備の問題、小規模校がかかえる課題の解消といったところから、様々な意見をいただいている。
- ・ 例えば、小規模の専門高校において校舎制を活用した総合的な専門高校とする、あるいは普通科と専門学科を併置するとなると、それぞれの地域で普通科と専門学科の選択肢は確保されることになる。また、統合することによって、学級数が確保されある程度の学校規模が維持できること、専門の学科に係る教員はそのまま配置され教科の専門性は確保できることになる。さらに、普通科の教員が十分配置できないといった課題についても、校舎制の導入により普通教科の教員の連携ができること、生徒の進路希望に応じた選択科目の開設がより可能になること、部活動の数と部員数が確保できるということも考えられる
- ・ 生徒の進路についても、普通科における大学進学への対応と専門学科における職業教育による人材の育成により、生徒の進路希望に対応し、地域外への生徒の流出を食い止めることができるのではないかと考える。
- ・ 小規模の専門高校のデメリットについて、仮に2学級から1学級になっても学科の専門性は確保されるが、学科の規模が小さくなることで生徒同士の競争意識がかかる、普通科目の教員が少なくなることで開設科目が少なくなる等が考えられる。校舎制の課題としては、校舎が分かれることで学校運営の面では統合にあたって十分な配慮は必要であり、また、生徒の移動についてもその手段を考えておかないと、授業時間内での移動が難しくなる。
- ・ 遠野・釜石ブロックでの校舎制導入については、将来の生徒減少への対応と学校を存続させるための選択肢として、将来的に検討していく必要はあると考える。

【県教委】

- ・ 学校間の距離が離れすぎれば生徒の移動も大変になるので、車での移動が30分以内である程度が目安となると考えている。

【盛岡市 参加者】

- ・ 地域の高校の存続について、1学級校についての特例等、存続に踏み込んで示している。1学級校については、特別な支援が必要な生徒も入学している状況にあるので、特例としての存続の検討をお願いしたい。

（次頁に続く）

- ・ 資料No.1 の意見への対応として、近隣の高校あるいは通学が容易な地域について考えを説明してほしい。
- ・ 地域検討会議では、生徒の地元志向が強くなっているという発言があった。中学生のアンケートからも、地元の学校だからという理由で高校を選択する生徒が 27.5%となっている。復興やまちづくり、地域で活躍できるボランティア等に関連する学科の設置を検討していただきたい。

【県教委】

- ・ 中学生のアンケートでは、通学に1時間以内を許容する回答が 70.2%であること、国が小中学校の統廃合に関わる通学に要する時間として 60 分と示していること等も参考としながら、公共交通機関の状況等を勘案し、様々な観点から検討していく。また、資料No.6 に示しているように、時間的な距離という部分を十分考えていきたい。
- ・ 大槌町と釜石市間の公共交通機関については、J R 山田線を三陸鉄道に移管する方向で復旧を進めているが、再開の時期が未定であることから、そういった復興の状況も勘案して進めていかなければならない。
- ・ 防災教育を含めた復興教育を各校において取り組んでいるところであるが、防災に関する学科については、具体的に何を学ぶかという教育内容の検討とともに、高校卒業後の進路をどのように確保するかということも含め、慎重に在り方を考える必要がある。

【遠野市 参加者】

- ・ 高校再編をする上での考え方が、遠野市の中学校再編の考え方と似ている。生徒の多様な進路希望への対応、部活動は5つ以上確保する、小規模校では切磋琢磨ができないといったことが理由としてあった。
- ・ 小規模校にはそんなにデメリットがあるのか。小規模校は岩手県独特なものであって、多くの学校は小規模でスタートし大規模になった。小規模校の良さを前面に出すべきではないか。今回の意見への対応には、望ましい学校規模に満たない学校でも対象にしないとしているところが評価できる。小規模校での人材育成に視点を置くべきではないのか。
- ・ この地域には被災した学校がたくさんある。被災地支援ということで、地域の学校を守るための予算化をするということで進めるべきものだと思う。
- ・ 芸術科や体育科等の学科を設置できないか。また、特別な支援が必要な生徒が増えている。特別支援学校との連携を密にした高校があってほしい。
- ・ 前計画の再編で高校が無くなった地域の検証はしているのか。遠野情報ビジネス校が無くなったが、その後地域はどうなったか知りたい。小規模校への対応がたくさんあるのはいいが、小規模校を残す施策であってほしい。

【県教委】

- ・ 少人数であることできめ細やかな指導はできるが、生徒が教員に頼りがちになり集団での学びで生まれる競争意欲が育ちにくい、友人関係が固定化され人間関係が壊れると修復が難しいといったことも考えられる。
- ・ 芸術等の専門性が高い学科については、広域での設置とならざるを得ない。かつて沿岸部の高校に体育学科を設置した例もあるが、今は無い。
- ・ 地元の高校が無くなったことで、高校への進学ができなくなった例は無いものと認識している。

(次頁に続く)

【県教委】

- ・ 中学校では、基本となる読み・書き・計算を全員で共通して学ぶが、高校はそれをベースに、将来の仕事を意識して科目を選択して学ぶ。資料No.2に示すように、2学級校と6学級校では地歴や理科の開設科目に違いがある。学校規模により配置できる教員数が限られ、小規模校であってもできるだけ多く科目を開設し、クラスも進学と就職のコースに分けて指導するが、大規模校に比べると難しい面はある。
- ・ 現在、文科省の事業を利用して小規模校同士を結んでの遠隔授業の導入を検討している。すべての学校に導入するとなると予算の関係もあり難しいが、小規模校の課題克服に努めていきたい。
- ・ 芸術科や体育科については、学科となると1学級40人定員でありどの地区でも40人集まるかとなると難しいので広域での設置となっている。専門性が高くなると、広域性で人数を確保していかなければならない。
- ・ 学校が無くなった地域について、旧東和町は東和高校が無くなった後も地域おこしがうまくいっている例となっているのではないかと。

【釜石市 参加者】

- ・ 第1回の意見交換会と比べると中学生のアンケート、通学に関する時間的な距離が資料として新たに加わったが、前回資料と同じものもありこの数カ月で再編の話があまり進んでいないと感じる。
- ・ 学校間の時間距離から、30分以内となるとこの地区ではどこも校舎制には当てはまらない。そうなると統合はせず、それぞれの高校が存続することになるのか。
- ・ 大規模校のメリットはあるが、小規模校ならではのメリットも大切にしてほしい。
- ・ 沿岸地域では水産業に力を入れている。しかし、釜石市には水産の学科がない。大学が関係する事業も釜石市では進んでいることから、水産を学べる学科があってもいいのではないかと。

【県教委】

- ・ 学科の設置については、地域の要望にできる限り応えていきたいが、生徒数の減少を考えると、今ある学科についても厳選していかなければならない状況にある。また、すべての高校の学級減は避けられない状況でもあり、近隣での統廃合も将来的には考えなければならぬ。その中で、校舎制の導入もありうるということで資料として示したものである。
- ・ 釜石・遠野ブロックでは、平成27年3月の中学校卒業者が656人に対し募集定員が760人であり、ブロック内の高校に入学した生徒が554人で206人の欠員となっている。復興の途上にあるということで、三陸鉄道等の公共交通機関の復興状況等も考えながら、学科改編や学級減の実施について検討していかなければならない。
- ・ 水産学科の設置について、現在、宮古水産高校と高田高校に設置しているがいずれも欠員が生じている状況にある。釜石市は岩手大学と連携した取り組みがあるものの、直ちに学科を設置することは難しいと考える。現状の専門学科をできるだけ生かしながら、学校をスリム化していく必要がある。
- ・ 校舎制については、バス等での移動で考えた場合ということで、遠野市内の高校あるいは釜石市内の高校ということで意見をいただきたい。各校が小規模化する中で、それぞれの機能を確保するということが、直ちということではないが検討は必要と考えている。

(次頁に続く)

【遠野市 参加者】

- ・ 遠野市の高校同士での校舎制ということだが、遠野の基幹産業は農業であり遠野市としてもこれからしっかり取り組んでいかなければならないと考える。農業従事者が少なく困っている状況ではあるが、遠野緑峰高校はいろんなことに挑戦している。専門分野をしっかり守っていくことが大事であり生徒数が少なくなったから1校に集めてということでの校舎制には疑問がある。地域の学校と文化を考え、さらに地域の実情を考えて進めていかないといけないのではないか。

【県教委】

- ・ 学校の伝統文化を守るのも大事であるが、部活や教員配置の面から考え一定規模を確保するための学校の統合も選択の一つではないか。